**「動物愛護管理」に関するリサーチプラン**

**１．調査の背景と目的**

大阪府では、「人と動物とが共生できる社会の実現」をめざして、「大阪府動物愛護管理推進計画」を策定（平成26年4月改定）し、犬・猫の引取り数の削減や返還譲渡率の向上等に取り組んできたが、一定の成果は出ているものの、まだ十分とは言えない状況にある。

今後、返還譲渡率の向上等の取り組みを促進するため、新たな財源の確保策として、一般府民や企業からの寄付を基にした基金創設を検討していくにあたり、動物愛護管理に対する寄付の意向や関心等を明らかにする。

また、人と動物とのよい関係づくりを進め社会全体で殺処分がなくなることをめざして平成29年

8月に開所した府立動物愛護管理センター＜愛称　アニマル ハーモニー大阪＞について、当センターが子どもから大人まで幅広い世代の利用を促進するために必要な府民ニーズ等を明らかにする。

**２．サンプル割付け**

　　現在、犬又は猫を飼っている大阪府民男女各２００人、過去に飼ったことがある大阪府民男女

各１００人、犬又は猫を飼ったことがない大阪府民男女各２００人の計１，０００サンプル

**３．調査（検証）事項**

仮説１：　動物愛護管理に関する寄付への関心度合は、犬・猫の飼養経験者と未経験者に差がある。

　　　　　　また、犬猫の飼養未経験者であっても、犬・猫が好きな人は、寄付への関心度合が高い。

　　　加えて、これまで社会的課題への寄付の経験者は、動物愛護管理に関する寄付への関心度が高い。

仮説２：　使途が「所有者のいない猫（いわゆる野良猫）の対策」であれば（最も）寄付をしたいと考える人は、他の使途に対し寄付をしたいと考える人に比べて、野良猫による被害を受けた経験のある人が多い。

仮説３：　動物愛護管理センターへの“関心”がある人は、犬・猫飼養経験者と未経験者に差がある

　　　　　　また、性別や年代別、居住地、子どもの有無で差がある。

**４．質問項目**

ＳＣ１　犬猫の飼養経験（現在・過去）の有無（ＳＡ）

　ＳＣ２－５　性別、年齢、都道府県、市町村

本質問　１５問

【全員】

Ｑ１　　犬・猫動物の好き嫌い（ＳＡ）

Ｑ２　【犬・猫が好きであって現在飼養なし】その理由（ＭＡ）

【全員】

Ｑ３　　自治体やＮＰＯ法人への寄付経験の有無（ＳＡ）

　Ｑ４　【寄付経験あり】寄付の内容（ＭＡ）

【全員】

Ｑ５　　動物愛護管理に関する寄付への関心の有無（ＳＡ）

Ｑ６　【関心あり層】寄付したいと思う項目　いくつでも・最も（表組・ＭＡ、ＳＡ）

【全員】

Ｑ７　　野良猫の被害経験の有無（ＳＡ）

Ｑ８　　動物愛護管理センターの認知（ＳＡ）

Ｑ９　　動物愛護管理センターへの関心の有無（ＳＡ）

Ｑ１０【関心あり層】関心のある項目（ＭＡ）

Ｑ１１【関心あり層】動物愛護管理センターにどのようなイベント等があれば行きたいか（ＭＡ）

【全員】

Ｑ１２　犬又は猫の譲受けの関心度（ＳＡ）

Ｑ１３【関心あり層】センターでの犬又は猫の譲受けの条件（表組・ＳＡ）

【全員】

Ｑ１４　動物愛護管理センターに期待すること（ＳＡ・自由記載）

Ｑ１５　子どもの有無（ＳＡ）

**５．検証方法**

（１）ＳＣ１×Ｑ５、Ｑ１×Ｑ５、Ｑ３×Ｑ５

（２）Ｑ６“所有者のいない猫の対策”等×Ｑ７

（３）ＳＣ１×Ｑ９　、ＳＣ性別・年代別・居住地・Ｑ１５“子どもの有無”×Ｑ９